

新世紀人文学研究会・記念シンポジウム

——新時代の学際的研究、＜知の協働＞をもとめて——

開催趣旨

この度、新世紀人文学研究会より『全地球時代からの人文主義』、『全地球時代からの言語学』が特別記念号として刊行されました。この二冊は田中寛教授古稀・退職記念論集として編まれたもので、それぞれコロナ禍のなか、研究者が人文主義の歴史・文学、言語の多様性を縦横に議論しています。いずれも30数篇をおさめた、500頁を超える研究成果です。

今回この刊行を記念し、また執筆者の労を労うために発表会を開催いたします。感染防止のため、zoomでの開催となりますが、参加費無料です。日本国内、海外（中国、タイ、英国）とも中継しながら、議論を試みます。皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

新世紀人文学研究会

事務局：酒井順一郎（九州産業大学）

お問い合わせ先 superfunkyjun@yahoo.co.jp

開催日時

2021年7月25日（日）13：00—17：20 11時30分から入室できます。

<https://zoom.us/j/92866365232?pwd=YVFMMjVCVzRHOFRYcDARNHhMR3cxUT09>

ミーティング ID: 928 6636 5232

パスコード: 559444

=====プログラム=====

13：00—13：05 開会の挨拶 酒井順一郎（九州産業大学教授） 5分

第Ⅰ部 『全地球時代からの人文主義』——現状と課題

13：05—13：15 発題 田中寛氏（大東文化大学名誉教授、亜細亜総合企画塾）10分

13：15—14：05 発表 特別寄稿者各5分、執筆者要約各2分 計約50分を目安

14：05—14：20/14：20—14：35 コメンテーターによるコメント

(1) 孫安石氏（神奈川大学教授）、(2) 村嶋英治氏（早稲田大学教授）各15分

14：35—14：50 質疑応答 15分 司会：酒井順一郎（九州産業大学教授）

*****休憩10分間*****

15：00—15：10 事務局からのご案内（新世紀人文学研究会について）酒井順一郎

第Ⅱ部 『全地球時代からの言語学』——現状と課題

15：10—15：20 発題 田中寛氏（大東文化大学名誉教授、亜細亜総合企画塾）10分

15：20—16：10 発表 特別寄稿者各5分、執筆者要約各2分 計約50分を目安

16：10—16：25/16：25—16：40 コメンテーターによるコメント

(3) 矢島正浩氏（愛知教育大学教授）、(4) 続三義氏（元東洋大学教授）各15分

16：40—16：55 質疑応答 15分 司会：酒井順一郎（九州産業大学教授）

16：55—17：20 総括、閉会の挨拶 宮脇弘幸氏（元宮城学院女子大学教授）

なお、要約の時間配分など、当日の状況により若干の変更が生じることもあります。

プログラム

◎発表順は、記念論集の目次順とします。当日は、できる限りプログラムに沿って進行しますが、時間の関係で多少短縮することもございます。何卒、ご了承ください。

◎ 発表者は第Ⅰ部 26 名、第Ⅱ部 29 名を予定しています。時間厳守をよろしくお願いいたします。順番が近くなりましたら、スタンバイ、マイク確認をお願いいたします。

◎発表者におかれましては、時間も制限されていますので、パワーポイントなどの使用は控えいただき、口頭での要約発表をお願いいたします。

◎できるだけ皆さまの顔が見える環境で、有意義な意見交換ができればと思います。

総合司会・進行 酒井順一郎

進行・補助協力 田中 寛

第Ⅰ部発表順 (当日の諸事情により多少変更が生じることがあります)

- ・田中寛 (大東文化大学名誉教授)「発題」

《特別寄稿》 各ご報告 5 分を目安とします。

- ・劉建輝 (国際日本文化研究センター教授)

「初めに言葉ありき——九世紀初頭来華プロテスタント宣教師の文化活動とその影響——」

- ・宮脇弘幸 (元宮城学院女子大学教授)

「日本軍の宣撫工作と日本語普及——華北占領区を中心に——」

- ・渡邊澄子 (大東文化大学名誉教授) * 予定

「漱石の『道草』を読む——ジェンダー平等の視点から——」

《満洲国研究・日本語教育史研究・植民地教育史研究》 各ご報告 2 分を目安とします。

- ・酒井順一郎 (九州産業大学国際文化学部教授)

「第 1 回国語対策協議会に於ける山口喜一郎の叫び」

- ・祝利 (九州大学比較社会文化研究院特別研究員)

「満洲国」における官吏に対する語学教育——1938 年文官令実施前まで——

- ・北島順子 (大手前短期大学歯科衛生学科教授)

「『満洲』における新教育・教科書にみる身体——スポーツに着目して——」

- ・伊月知子 (愛媛大学国際連携推進機構国際教育支援センター准教授)

「『満洲国』の日本語教育に対する戦中から戦後にかけての評価 ——戦中・戦後の新聞・雑誌・記録をたどる——」

- ・赤桐敦 (京都大学大学院工学部研究科附属工学基盤教育研究センター非常勤講師)

「王照による近代的言語教育の展開 ——20 世紀初頭、仮名文字を用いた識字 (リテラシ

一) 教育が中国に与えた影響一

- ・川上尚恵（神戸大学国際教育総合センター講師）
「釘本久春の日本語と国語―戦中から戦後にかけて―」
- ・上田崇仁（南山大学人文学部教授）
「『日語読本』の特徴～併合前の教科書は何を教えたのか～ ―テキストマイニングで見えてくること―」
- ・渡辺洋介（NPO 法人ピースラボ研究員、大阪経済法科大学客員研究員） ***予定**
「シンガポールの歴史教科書に見る日本占領（1965-1994）」
- ・賈鵬飛（中国・山東青年政治学院外国語学院講師）
「張我軍の日本語教育の実践と思想」
- ・田中寛（大東文化大学名誉教授、亜細亜総合企画塾） ***場合により割愛**
「南へゆくニッポンゴ―日本語南方進出の理想と現実―」
- ・小川誉子美（横浜国立大学教授）
「ソ連の日本語研究・日本語教育―レニングラードを中心に―」
- ・藤森智子（田園調布学園大学人間福祉学部教授）
「1920 年代台湾における『国語普及』―台北州海山郡鶯歌庄の『国語練習会』を例として―」

《タイ学研究・日タイ関係史研究》

- ・加納寛（愛知大学国際コミュニケーション学科教授）
「戦時期日本の対タイ宣伝に関する研究の現状と課題」
- ・酒井健太郎（昭和音楽大学准教授）
「1930 年代の日タイ文化交流事業への柳澤健の関わり―柳澤健研究(3)―」
- ・山下暁子（東邦音楽大学非常勤講師）
「1930 年代前後のタイ音楽の「古典化」―古典音楽の楽譜化と設立初期のシャム国立舞踊音楽学校を中心に―」
- ・沼田尚道（元国立研究開発法人情報通信研究機構アジア連携センター長、元東北大学大学院電気通信研究科特任教授）
「昭和 10 年代日本の海外放送とタイ・バンコク ―ラジオ放送聴取普及、ラジオ塔とラ

ジオ体操が担ったこと―

- ・伊藤孝行（北海道大学准教授）

「テキストアナリシスによる『暹羅協會々報』『日本タイ協會々報』総目次の検証」

- ・山口雅代（東京福祉大学准教授）

「戦前・戦中のタイにおける日本語教育の『楽屋』と『舞台』―文化事業変遷と軍事的影響―」

- ・北村武士*（元国際交流基金国際日本語センター講師） ***代表発表者**

川口泰広（S.Y. Japanese Service Center 代表、元チェンマイ大学非常勤講師）

「タイ国の日本語教育史関連インタビュー資料紹介 ―チェンマイ地域の学習者等へのインタビュー―」

- ・佐藤宏文（タイ王国ヤラー・ラジャパート大学客員教授、マレーシア国マラヤ大学上級研究教員）

「タイ王国南部のマレー系住民と言語活動」

《歴史文化思想研究・文学研究》

- ・趙軍（千葉商科大学商学部教授）

「『英雄』未満、「凡人」以上―『中西功訊問調書』から見る中西功の反戦活動とその限界―」

- ・崔学森（中国・大連外国語大学教授）

「清国の「日本に師事する」憲法制定に関する論評」

- ・東口昌央（兵庫県立小野高等学校教諭） ***要約代読を予定**

「九条の必然性―阪神・淡路大震災後の小田実―

- ・橋本正志（別府大学文学部国際言語文化学科准教授）

「中島敦「名人伝」論―土方久功「パラオの勇者」との比較を中心に―」

- ・田中寛（大東文化大学名誉教授、亜細亜総合企画塾） ***場合により割愛**

「我がピトロッホリーの日々―漱石のスコットランドに寄り添いて―」

第Ⅰ部コメンテーター 15分ずつを目安にコメントをいただきます。

《満洲国研究・日本語教育史研究・植民地教育史研究》

孫安石（神奈川大学外国語学部教授）

《タイ学研究・日タイ関係史研究》

村嶋英治（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

休憩時間&ご案内

記念論集について、新世紀人文学研究会について、総合企画塾について

.....

第Ⅱ部 言語学篇発表者（当日の諸事情により多少変更することがあります）

- ・田中寛「発題」

《特別寄稿》 各ご報告5分を目安にしています。

- ・定延利之（京都大学大学院文学研究科教授） ***要約代読を予定**
「名詞一語発話の文的資格を問う」

- ・前田直子（学習院大学文学部教授） ***要約代読を予定**
「授受動詞の使用実態と教え方」

- ・森山卓郎（早稲田大学文学学術院教授）
「「観点をあらわす名詞」と「～的」」

- ・高橋弥守彦（大東文化大学名誉教授）
「二類の移動動詞は何を表しているのか」

- ・王学群（元東洋大学経営学部教授）
「日本語の「シタコトガアル」と中国語の“V 过”について」

- ・張岩紅（中国・大連外国語大学外国語学院教授） ***要約代読を予定**
「連語論から見る「格付き空間詞+くる」の意味変化について」

- ・時衛国（中国・山東大学外国語学院教授、人文社会科学青島研究員特別招聘教授）
「継続表現の中日対照研究」

- ・*張佩霞（中国・湖南大学外国語学院教授）、陳星裕、蘇鷹 ***は代表発表者**
「中国人日本語学習者の作文における接続詞の使用実態に関する一考察
—「湖南大学学習者中間言語」コーパスを通して—」

《日本語学研究・言語学研究》

- ・馬一川（中国・浙江外国語大学東方語言学院講師）
「「ト」と「時間表現」の用法にみる連続性」

- ・朴龍徳（中国・延辺大学外国語学院日本語学部講師） ***要約代読を予定**
「始動を表す「～かける」の意味—認知意味論的に「～始める」との対照をかねて—」

- ・胡春艷（中国・東北石油大学外国語学院副教授）

「中国語A A式形容詞重疊式の語義変容—「綿綿」を中心に—」

- ・張麗（中国・東北師範大学中国赴日本留学生予備学校講師）

「二格とデ格の交替について—「濡れる」を中心に—」

- ・辛奕羸（中国・齊魯工業大学外国語学院講師） シンイシン

「助詞「の」の認知的な意味の考察

—連体修飾語を作る「の」と準体助詞としての「の」をめぐって—」

- ・石橋教行（英国ロンドン、日本語教師。形式体言研究会代表）

「いわゆる主格の「が」と「の」の表現するもの—古代語から現代語へ—」

- ・朴鍾厚（獨協大学国際教養学部特任准教授）

「日本の大学における非専攻韓国語学習者の向上させたい言語能力に関する調査分析」

《対照言語学研究》

- ・李金蓮（中国・山東大学外国語学院副教授）

「受身文の述語動詞の特徴について—日中対照の視点から—」

- ・魏美平（中国・山東理工大学外国語学院講師）

「「実現可能」に影響する文脈環境の一考察」

- ・劉会禎（中国・青島理工大学外国語学院講師）

「日中対照からみる「ノダカラ」の意味機能」

- ・孫宇雷（中国・中山大学研究員）

「日中対訳コーパスからみる「トコロ」節の主観化」

- ・張静苑（中国・河南大学外国語学院講師）

「関係節の機能と統語的構造に関する日中両言語対照研究」

- ・楊超時（中国・北京外国語大学日本語学科副教授）

「日中職業名の語尾の造語成分についての一考察」

- ・黄偉（中国・安徽省財經大学日本語学部講師） コウイ

「日本語と中国語における否定疑問文に関する比較研究」

- ・ピヤトーン・ケウワッタナ（タイ王国・日本大使館広報部）

「逆接表現をめぐる日タイ対照研究—「くせ(に)」を中心に—」

- ・タナパット・ソンティラック（タイ王国・国立カセサート大学人文学部講師）
「日本語の受動表現およびそれに対応するタイ語の表現の分析
—翻訳資料に見られる用例との比較を通して—」

- ・田中寛（大東文化大学名誉教授） ***場合により割愛**
「タイ語の義務、責任、確信のモダリティ—日タイ対照研究の視点から—」

《日本語教育学研究・日本語教育史研究》

- ・吉嶺加奈子（防衛大学校人文社会科学群人間文化学科准教授）
「タイの大学日本語教育における with コロナの ICT 利活用」
- ・森康眞（タイ王国・スィーパトゥム大学教養学部日本語ビジネスコミュニケーション学
科助教授）
「タイ人日本語学習者の初中級レベルの文法習得状況と定着度
—スィーパトゥム大学・日本語主専攻学生を事例として—」

- ・方喆（中国・広州華南商貿職業学院講師） ホウキツ
「日本語教育現場における中国母語話者の誤用考察」

- ・郭子瑄（中国・福州外語外貿学院日語系副教授） カクシゲン
「日本語学習 APP の応用に関する研究」

- ・葉慧君（台湾・明道大学非常勤講師） ヨウケイケン
「日本統治時代における台湾人先住民の日本語教育
—タイヤル族の日本語使用状況の分析—」

- 田中寛（大東文化大学名誉教授） ***場合により割愛**
【最終講義】「私の日本語教育、日本語研究の歩み—＜責任の言語学＞序説—」
「吾は如何にして日本語教師になりしか—自分史的回顧抄録—」
「遥かなる湖南—わが「青春中国」の日々を顧みて—」

第Ⅱ部 コメンテーター 各15分ずつを目安にコメントをいただきます。

《日本語学研究・言語学研究／日本語教育学研究・日本語教育史研究》

矢島正浩（愛知教育大学教育学部教授）

《対照言語学研究》

続三義（元東洋大学教授） ショクサンギ

ご所属・職位は届け出の通りとしました。

『新世紀人文学論究』（新世紀人文学研究会）特別記念号が刊行されました。

■新世紀人文学研究会（発起人：田中寛、酒井順一郎）はその名のとおり、新しい時代の人文学を学際的、国際的に論究することを目的に2017年に設立されました。言語を中核に文学、歴史学といった周辺分野との連携を積極的に進めてまいります。実学重視の潮流の中で人文学の衰退が議論されていますが、本研究会は人文学の本質を考究し、言語と言語活動の意味をさらに拡張して＜知の協働体＞を指向するものです。

学術誌『新世紀人文学論究』には研究会発表の論文を中心に自由研究の論文も随時募集しています。言語に関心を持ち、より広い周辺学問領域との連携にご関心のある方なら国内外を問わず、どなたでも参加、投稿を歓迎します。

■このたびの特別記念号は田中寛教授古稀・退職記念号と銘打ち、4号を『全地球時代からの人文主義』、5号を『全地球時代からの言語学』として刊行されました。4号では4時間におよぶ座談会を冒頭に特別寄稿論文、植民地教育史、日本語教育史研究、戦前から現代までの日タイ交渉史、文学研究など、親交の深い研究者による充実の30余篇を収録、5号は学位取得者の若手研究者を中心に幅広い日中の研究者の特別寄稿論文、言語学、日本語学、対照研究では日中、日タイ対照研究の論文、さらに日本語教育（教授法、教育の実態と展望、日本語学習者の誤用例分析）、日本語教育史研究の関連論文30余編を収めています。

■この二冊の記念号はグローバル化、コロナ禍の時代からの人文学研究のあり方を議論した記念碑的成果であり、若い研究者の研鑽の結晶ともなっています。とりわけ4号掲載の座談会、5号掲載の最終講義、「吾は如何にして日本語教師になりしか」「遙かなる湖南」等の回顧的省察は言語研究、日本語教育を志す人にとって貴重な導きともなっています。

記念号は国内の主要大学機関などに寄贈の予定ですが、入手をご希望の方には実費（印刷製本費）にて頒布いたしますので、下記宛てにご照会いただきますようご案内いたします。ご要望を確認次第、レターパックにて郵送いたします。（受領後にお振込みください）

皆様からのお問合せをお待ちしております。

各冊 B5 判 508、510 頁。頒布価格 4 号 3,000 円、5 号 2,000 円（送料は事務局負担）

お振込先 みずほ銀行 東武練馬支店 238

普通預金口座番号 1199439 タナカ ヒロシ

ご照会先 新世紀人文学研究会事務局

hiroshitanaka724@gmail.com（総合企画塾 塾長田中寛）

j.sakai@ip.kyusan-u.ac.jp（九州産業大学国際文化学部 酒井順一郎研究室）

新世紀人文学研究会について

新世紀人文学研究会は激動の21世紀の時代に、真の学際的、国際的連携をめざすべく、内外の研究、教育者との交流を通じて、人文主義、言語研究を推進してまいります。

従来の日タイ言語文化研究会、戦時日本語教育史研究会もこれに編入し、全方位的な研究を進めてまいります。

現在、会則、学術誌『新世紀人文学論究』投稿規定などを整備していますが、内外の皆様におかれましては、何卒、ご支援ご協力のほどをお願いいたします。

なお、『新世紀人文学論究』第1号～第3号（在庫僅少）のご購入につきましては、下記あてにお問い合わせください。頒布価格、各号一冊、2000円（税・送料込）。

新世紀人文学研究会

事務局：酒井順一郎（九州産業大学）

お問い合わせ先 superfunkyjun@yahoo.co.jp

ISSN 2434-2416	
新世紀人文学論究	
第2号 2018.11	
特集 日本語教育史からみた日中戦争	
はしがき 刊行のことば	2
《言語・思想・文学・歴史の広場》監修中の四方山話―「大学改革疲れ」の実態―	5
特集号によせて	7
戦時日本語教育史研究会のめざすもの―シンポジウムの開催にあたって―	田中 寛 9
末實ご挨拶：植民地・戦争と語学教育―その歴史を論じることの意味―	趙軍 17
《基礎講座》日中戦争期の日本語、日本文化普及	
―「満洲国」と大連古蹟地における方策と実態―	宮脇弘幸 19
《研究発表論文》	
八路軍の戦場に於ける日本語教育と日中相互文化交流	酒井順一郎 37
「満洲国」における日本語教員養成	祝利 57
中国古蹟地における日本語普及の一考察	
―戦時新聞外報版（北支・中支）にみる日本語工作の実態―	田中 寛 75
華中占領地の日本語―『大連新報』を手帳かりに―	関 智英 97
日中戦争期台湾における日本語普及―戦時下の社会教化を中心に―	藤森智子 123
【コメント】日中戦争勃発80周年シンポジウム	
「日本語教育史からみた日中戦争（1937-45）」に参加して	平高史也 133
《寄稿研究論文》	
日中戦争期における中国の少年達の日本語学習	川上尚恵 135
日中戦争期の学校教育を通じた意識構築	
―日満洲国引揚への働き取り調査から―	甲賀真広 157
張鼓灘の日本語教育観と植民地語学との関連	
―抗日、社会改造のための日本語教育―	賀 藤飛 175
中国人留學生の作文に関する一考察	
―歴史・アニメ・本家がつなぐ日本語学習―	橋本正志 191
■戦時日本語教育史料検閲①■	
日本語の大連進出（文部省圖書局）…207／中華民国に於ける日本語（太田宇之助）…211／東部の共通語としての日本語（石黒 修）…216／日本語の世界的進出と教授法の研究（大出正憲）…218／大連の明日と国語―日本語普及の実践的基礎―（釘本久春）…227／中支に於ける日本語教育（菊池 隆平）…237／大連に於ける日本語の教室（西尾 實）…238／日本語の教室（一谷清昭）…243／おるる！《各語鹿雄》…245／江南の春―××縣立小学校開校―（釘本久春）…246	
【解説】原典史料再読の意義について	編纂部 251
【講演レポート】七三一部隊問題の史実をどのような表現で、語り伝えるのか	金土成 253
【エッセイ】金土成レポートを読んで	和賀井倫雄 256
【新刊書紹介】『プロパガンダの文学』、『太平洋戦争日本語課報』、『永遠の理念』	36, 132, 156
会報（執筆一覧、執筆要領、研究会会則）	260
新世紀人文学研究会	

亜細亜総合企画塾について

設立趣旨

アジアをはじめ諸外国との友好交流を通して、新しい学術研究の連携をはかるため、亜細亜総合企画塾は次のような活動を実施してまいります。

(1) 新世紀人文学研究会の支援

研究会の開催、学術誌『新世紀人文学論究』刊行への協力を行います。とりわけ、コロナ時代、アフターコロナ時代を見据えて、想像力と自由の活路を、人文学、言語学の領域において議論してまいります。

(2) 対外学術支援

主としてアジア諸国（東アジア、東南アジア）の研究者、教育者と連携し、学術交流を進めながら、若手研究者の学術支援を目的とします。各種学術フォーラム、シンポジウムなどもズーム開催を主体に、不定期ながら、計画実施してまいります。

(3) 出版活動

言語、文学、歴史にわたる広範な人文学の領域を見据え、戦時日本語教育関係資料、戦時日タイ交渉史関係資料の復刊、翻訳、批評などを進めていきます。それらの成果は不定期的に公開してまいります。

文芸誌『人間にとって *Pour les humains*』（年2回）を創刊し、文学批評、歴史探訪、紀行、エッセイ、創作（翻訳含）などを発信します。

(4) 広報活動

以上の活動内容は『総合企画 NEWS』（年2回）でも発信していきます。

事務局

下記に事務局を設置します。

〒353-0005

埼玉県志木市幸町 1—7—17 田中寛

TEL/Fax 0484712857

hiroshitanaka724@gmail.com